

平成21年度
生物多様性データベース作成課題
研究報告書

研究題目 鱗翅目データベース

所属機関名 北九州市立自然史・歴史博物館

代表研究者氏名 上田恭一郎 印

平成22年3月10日

1. 研究の進捗状況、成果の現状と今後の見込み(概要)

本年度も概ね計画通り進行した。ただ一般公開が遅延している。日本産蝶類に関する最新の学名辞書は完成し、これに基づいてデータを更新中である。

1-1. 当初の計画

11,000 件の画像データベースを参加5機関で作成する。1 件につき表面（種によっては裏面も）、ラベル画像を撮影。一般公開を行う。

1-2. 上記に対し、見直した点

担当者が COP10 等のデータベース作成で多忙となり、一般公開が遅れているが、将来の独立運用も視野に入れ、サーバーを購入し、データの保全を行った。

1-3. 今後の見込み

入力件数は計画通り実施の見込み。自機関での一般公開は秋の COP10 終了後を目指したい。

2. 作成データについて

生物分野	標本所有機関	標本所有数(概数)	データ源	表現形式	H20 年度作成データ数(日本語、英語)(実績)	H21 年度作成データ数(日本語、英語)(実績)	H22 年度作成データ数(日本語、英語)(予定)	課題終了時のデータ数(日本語、英語)(予定)(課題開始時のデータ数を含む)
鱗翅目昆虫 チョウ・ガ類	北九州市立自然史・歴史博物館	185,000	一般標本、タイプ標本	文字、画像	日本語：3,321 件 英語：3,321 件	日本語：3,300 件 英語：3,300 件	日本語：3,300 件 英語：3,300 件	日本語：17,056 件 英語：17,056 件
	農業環境技術研究所	220,000	一般標本、タイプ標本	文字、画像	日本語：2,200 件 英語：2,200 件	日本語：2,200 件 英語：2,200 件	日本語：2,200 件 英語：2,200 件	日本語：9,886 件 英語：9,886 件
	大阪府立大学	228,000	一般標本、タイプ標本	文字、画像	日本語：2,200 件 英語：2,200 件	日本語：2,200 件 英語：2,200 件	日本語：2,200 件 英語：2,200 件	日本語：9,859 件 英語：9,859 件
	兵庫県立人と自然の博物館	200,000	一般標本、タイプ標本	文字、画像	日本語：2,552 件 英語：2,552 件	日本語：2,400 件 英語：2,400 件	日本語：2,200 件 英語：2,200 件	日本語：9,868 件 英語：9,868 件
	九州大学比較社会文化研究院	39,000	一般標本、タイプ標本	文字、画像	日本語：1,100 件 英語：1,100 件	日本語：1,100 件 英語：1,100 件	日本語：1,100 件 英語：1,100 件	日本語：4,946 件 英語：4,946 件

3. データ項目について

当初計画どおり入力された。

文字データ：標本番号、証拠標本 ID (アクセッション)、種名 (学名)、和名、地名 (産地)、標高、座標、日付 (採集年月日)、採集者、同定者、同定日付、タイプ情報、ノート。

画像：標本 (種によっては表面、裏面)、ラベル、交尾器等形態図、塩基配列。

基本的には Darwin Core2 に準拠している。

4. データのクオリティ・コントロールについて

全般的には平成 22 年 1 月 22 日開催のアドバイザー委員会にて各委員からチェックが行われた。個々の種類の学名、同定の問題が生じたときはその都度各参加研究者が対応し、それぞれの分類群の専門家に依頼した。

5. データ公開について

5-1. H21 年度作成データの公開時期と公開方法について

GBIF 日本ノード：全データは 3 月 10 日までに送付可能。公開時期は日本ノードの作業進行状態による。これまでのデータは順次公開中。

他機関：東京大学伊藤研究室のサーバーからは 11 月末に Lepimage (<http://moth.c.u-tokyo.ac.jp:3000>) として公開を予定 (試験公開は 2008 から実施)。

自機関：東大伊藤研究室での公開後に行う予定。

5-2. データ公開の問題点について

一般の人々が採集することで、その存続が危うくなる段階まで個体数が減少している蝶類では絶滅危惧種、レッドデータに掲載されている種類のデータ公開制限を考えないといけない。そのデータを見た人が採集するため現地を訪れ、文字通り絶滅したり、保護活動を行っている団体とトラブルが生じているからである。これらの種のラベル情報は許可された人 (ユーザ登録項目作成) 以外は見るできないようにするシステムを東大伊藤研究室でのデータベースでは試行している。

6. システムの改修について

該当無し。ワーキンググループ内で作成、解決。

7. 課題終了後の運用について

運用体制：東大伊藤研究室のサーバーにて独自ドメイン Lepimages.jp のもと運用 (現在の試験運用は <http://moth.c.u-tokyo.ac.jp:3000/>)。トップページ、内容の一部別添。サーバーは今年度将来自機関公開のため専用のものを 1 台購入済。将来的には東大伊藤研究室と自機関で並行して公開する予定。

8. 他機関、学会等との連携について

日本産蝶類の最新の学名を用いるため、猪又敏男、植村好延、矢後勝也、上田恭一郎が日本昆虫学会の日本昆虫目録作成委員会の依頼を受けて原稿が完成した日本産蝶類学名目録に基づき、許可を得て日本産蝶類和名学名便覧を作成した。上田は文献上のいくつかの問題を解決するため、ロンドンの自然史博物館にて平成 21 年 3 月 14 日から 23 日原記載、タイプ標本調査を行った。この和名学名便覧は GBIF 日本ノードにて無償公開可能である。

9. 国内的・国際的寄与について

(単年度報告書では記載不要)

9-1. 作成データの国内的・国際的寄与について

(単年度報告書では記載不要)

- (1) 意義
- (2) 国内的位置付け
- (3) 国際的位置づけ

9-2. 研究者の活用、育成、協力への寄与について

(単年度報告書では記載不要)

10. 平成21年度 推進体制

代表研究者	上田恭一郎、北九州市立自然史・歴史博物館、学芸担当部長 全体の総括、および日本産蝶類のデータ入力作成
参加研究者 (自機関・他機関を含む)	矢田脩 九州大学比較社会文化研究院、教授 シロチョウ科データ入力作成 広渡俊哉 大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科、准教授 小蛾類データ入力作成 吉松慎一 独立行政法人 農業環境技術研究所 農業環境インベントリーセンター、主任研究員 ヤガ類データ入力作成 橋本佳明 兵庫県立大学自然環境科学研究所／兵庫県立人と自然の博物館 系統分類研究部 准教授／主任研究員 シジミチョウ科データ入力作成
アルバイト等	アルバイト 6名 (データ入力)
アドバイザー委員会	委員長 緒方一夫 (九州大学熱帯農学研究センター教授) 委員 鶴川義宏 (宮城教育大学情報処理センター教授) 委員 吉安裕 (京都府立大学生命環境科学研究科教授)
ワーキンググループ	矢田脩 (九州大学比較社会文化研究院、教授) 広渡俊哉 (大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科、准教授) 吉松慎一 (独立行政法人農業環境技術研究所 農業環境インベントリーセンター、主任研究員) 橋本佳明 (兵庫県立大学自然環境科学研究所／兵庫県立人と自然の博物館 系統分類研究部 准教授／主任研究員) 神保宇嗣 (東京大学大学院総合文化研究科 広域科学専攻・広域システム科学系 伊藤研究室)

11. 平成22年度 推進体制（見込み）

代表研究者	上田恭一郎、北九州市立自然史・歴史博物館、学芸担当部長 全体の総括、および日本産蝶類のデータ入力作成
参加研究者 (自機関・他機関を含む)	阿部芳久 九州大学比較社会文化研究院、教授 シロチョウ科データ入力作成（矢田脩教授の後任） 広渡俊哉 大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科、准教授、 小蛾類データ入力作成 吉松慎一 独立行政法人 農業環境技術研究所 農業環境インベントリーセンター、主任研究員 ヤガ類データ入力作成 橋本佳明 兵庫県立大学自然環境科学研究所／兵庫県立人と自然の博物館 系統分類研究部 准教授／主任研究員 シジミチョウ科データ入力作成
雇用等を希望する アルバイト等	アルバイト 6名（担当する内容：データ入力）
アドバイザー委員会	委員長 緒方一夫（九州大学熱帯農学研究センター教授） 委員 鵜川義宏（宮城教育大学情報処理センター教授） 委員 吉安裕（京都府立大学生命環境科学研究科教授）
ワーキンググループ	阿部芳久（九州大学比較社会文化研究院、教授）（矢田脩教授の後任） 広渡俊哉（大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科、准教授） 吉松慎一（独立行政法人農業環境技術研究所 農業環境インベントリーセンター、主任研究員） 橋本佳明（兵庫県立大学自然環境科学研究所／兵庫県立人と自然の博物館 系統分類研究部 准教授／主任研究員） 神保宇嗣（東京大学大学院総合文化研究科 広域科学専攻・広域システム科学系 伊藤研究室）

12. スケジュール

(当初計画に対してより詳細に記載してください。次ページ以降に記載の経費執行との連動が分かるように記載してください。当初計画から変更があった場合は当初計画の矢印を消さずに、太い赤色の矢印を追記してください。また、計画どおりに行かなかった点についてはその理由を表の下部に簡潔にお書き下さい。)

	H20 年度	H21 年度	H22 年度
データ作成・入力	この期間、同定、学名検討作業が行われる。		
試験公開 ※1	東大伊藤研 →		
	Lepimage (http://moth.c.u.-tokyo.ac.jp:3000)		
公開 ※1	自機関		
		Lepimage (http://moth.c.u.-tokyo.ac.jp:3000)	
		GBIF 日本ノード	
その他 ※2	△ 会議	システム構築、およびサーバーの取得、設置 △ 会議	システム改良、公開 △ 会議

自機関による試験公開および公開が遅れた理由：システム担当者が類似作業、および COP10 のデータベース作成に従事しているため、本データベース公開、改良の時間がとれなくなった。公開は COP10 終了後に行う予定。